日蓮聖人伝

伊豆法難（一）

聖人は、万民を救おうと、幕府に諫言されましたが、聞き入れられることなく、弘長元年（一二六一）五月十二日、伊豆伊東に配流となってしまいました。

配流地は、伊豆伊東の城ヶ崎海岸の南方に位置する日蓮崎岸壁下の海中にある「俎岩」といわれる岩礁に、聖人を置き去りにしてしまったのです。潮が満ちれば、溺れてしまう場所に舟からおろされた聖人は、どんなに心細かったことか、配流地の役人に引き渡されることもなく、途方に暮れていた聖人を救ったのは船守弥三郎でした。

伊豆に着いて翌月にしたためた「船守弥三郎許御書」によれば、「この地での迫害から守って頂き、また五月という米も乏しい時期に日蓮をはぐくみ給うことは、日蓮の父母か釈尊の生まれ変わりであろうか」とその感謝の気持ちを述べられておられます。

また、「地頭・万民、日蓮をにくみねたむ事は鎌倉よりもすぎたり」とありますことより、船守弥三郎夫婦が、周りの目も気遣いながら聖人をお守りしたことは、計り知れない苦労があったことと推察されます。

ところで、伊東の地頭である伊東八郎左衛門は、聖人がこの地に着いたころ病気に罹りましたが、聖人が祈祷したところその病気が治ったと言われています。

幕府からの申しつけだとしても、聖人を「憎み妬む」ことの先頭に立つ地頭が、聖人に病気平癒の祈念を頼むとは、よほどの病気だったのでしょうか、医者の手に負えない病だったのかもしれません。

その後、地頭の聖人に対する対応の変化は想像に難くありません。聖人のために毘沙門堂を建立し、聖人が鎌倉に帰る時には日預の名を賜り弟子となり、自館に菩提所を造りました。後に、毘沙門堂は現在の本山仏現寺となり、菩提所は仏光寺となりました。

除厄星祭

毎年、節分には、厄除け（八方除け）と、星祭のご祈祷をおこなっております。各表をご覧になり本年が、厄年の方や、星周りの悪い方は、お申し込み頂くことをお勧めいたします。

「厄除け」は、本年が厄年の方と、八方塞の方はおこなったほうがよいでしょう。（下方図「厄除・八方塞」参照）

「星祭」とは、九曜星という星周りがあり、人それぞれに各星が配当されております。一年を通して注意されたほうがよい●の方と、一年の前半の六ヶ月に注意が必要な方◐と、一年の後半の六ヶ月に注意が必要な方◑は、星祭札をお申し込みされることをお勧めします。（左表「男女九曜星表」参照）

受付は一月よりおこなっております。

詳しくは宝清寺寺務所にご相談ください。

男女九曜星表（年齢はかぞえ歳で男女共通）

1歳・10歳・19歳・28歳・37歳・46歳・55歳・64歳・73歳・82歳・91歳・100歳	男●	羅睺星（陰運）
	女●	計都星（病運）
2歳・11歳・20歳・29歳・38歳・47歳・56歳・65歳・74歳・83歳・92歳・101歳	男◑	土曜星（陽運）
	女●	火曜星（不運）
3歳・12歳・21歳・30歳・39歳・48歳・57歳・66歳・75歳・84歳・93歳・102歳	男◑	水曜星（大運）
	女○	木曜星（楽運）
4歳・13歳・22歳・31歳・40歳・49歳・58歳・67歳・76歳・85歳・94歳・103歳	男◐	金曜星（暗運）
	女○	月曜星（進運）
5歳・14歳・23歳・32歳・41歳・50歳・59歳・68歳・77歳・86歳・95歳・104歳	男○	日曜星（幸運）
	女◑	土曜星（陽運）
6歳・15歳・24歳・33歳・42歳・51歳・60歳・69歳・78歳・87歳・96歳・105歳	男●	火曜星（不運）
	女●	羅睺星（陰運）
7歳・16歳・25歳・34歳・43歳・52歳・61歳・70歳・79歳・88歳・97歳・106歳	男●	計都星（病運）
	女○	日曜星（幸運）
8歳・17歳・26歳・35歳・44歳・53歳・62歳・71歳・80歳・89歳・98歳・107歳	男○	月曜星（進運）
	女◐	金曜星（暗運）
9歳・18歳・27歳・36歳・45歳・54歳・63歳・72歳・81歳・90歳・99歳・108歳	男○	木曜星（楽運）
	女◑	水曜星（大運）

厄除・八方塞（数え歳）

厄　年…6歳・15歳・24歳・33歳・42歳・51歳・60歳・69歳・78歳・87歳・96歳

八方塞…1歳・10歳・19歳・28歳・37歳・46歳・55歳・64歳・73歳・82歳・91歳

編集後記

あけましておめでとうございます。

皆様にとって昨年はどのような年だったでしょうか。本年がより良い年でありますように御祈念申し上げます。

本年は丁酉（ひのとり）の年です。丁（ひのと）とは「火」を意味し、酉（とり）は暦学的では「金」を意味します。火は金を溶かす性質があり、あまり相性の良くない状態を意味します。（暦的には相剋と言う）

また丁は、新芽が息吹く時をあらわし、酉は果実が成熟しきった状態を意味するそうです。このように相反するものが存在する年が丁酉年の傾向だといえます。

このような年は、今までやってきた事が熟成する収穫の時期でもあり、また新芽が息吹く年であることから、新規になにか行うことも良い年のように思えますが、結果的に双方が拮抗する年であることから、物事を行う時は注意深く進めて頂く必要がある年だと言えるでしょう。

宝清寺の草花

春になると、土手などに土筆が生えます。

土筆は、杉菜の胞子茎のことで、地中で土筆と杉菜はつながっています。

（すぎな）

土筆を油炒めや、おひたしなどにして食べた経験のある方もいらっしゃると思います。

土筆はお墓にもよくはえているのを見かけますが、掃除をする時には根が一面に張っているので、ご苦労をされている方もいるでしょう。

「野菊の墓」の作者、伊藤左千夫が、正岡子規の病気見舞いに紅梅の鉢を持って行きました。梅の下には土筆がはえているのを見た子規は、その鉢を喜び句を作りました。

「くれないの　梅散るなへに　故郷に　つくしつみにし　春し思ほゆ」

正岡子規は、つくしを食べるのも好きだったようで、ほろ苦い味とともに故郷を思い出し、病床で心をなごませたことでしょう。

発行：日蓮宗 水谷山宝清寺
住所：〒197-0821 東京都あきる野市小川１０１
電話：042（558）2663
FAX：042（558）2693
インターネット・公式ホームページ
http://www.houseiji.com/
eメールアドレス
houseiji@ac.auone-net.jp
「たちばな新聞」第1号　平成4年3月1日発行
年4回発行（1月、3月、7月、9月）

御祈願 御祈祷

開運祈願　商売繁盛
交通安全　良縁成就
安産祈願　厄除星祭
学力増進　方位除け
身体健全　当病平癒

日蓮宗の聖日

二月節分　厄除け・星祭
三月彼岸中日　彼岸塔婆供養
四月八日　花まつり（灌仏会）
四月八日　オリエンテンブリング
七月十七日　お盆塔婆供養
七月十七日　施餓鬼法要
九月彼岸中日　彼岸塔婆供養
十月十二日　お会式法要
十二月初旬　お釜締札

宝清寺の年中行事

二月十五日　釈尊涅槃会
二月十六日　宗祖降誕会
四月八日　釈尊降誕会
四月二十八日　立教開宗会
五月十二日　伊豆法難会
五月十七日　身延御入山
七月八日　本尊始顕会
八月二十七日　松葉谷法難会
九月十二日　龍ノ口法難会
九月十八日　池上御入山
十月十三日　宗祖御会式
十二月十一日　小松原法難会

たちばな新聞

水谷山 寶清寺

明けましておめでとうございます

気持ちを新たに新年を迎えられたことと思います。

昨年は人々の心の荒廃からと思われる事件が多発しました。そこで、年頭にあたり、心掛けとして大切にしたいと思う「日蓮聖人の遺文」と、昨年のお会式での法話「心のあり方」を紹介して、新しい年がお檀家の皆様にとって幸多い事を祈念したいと思います。

日蓮聖人遺訓 第四十七回

「心の師とはなるとも心を師とせざれ」（兄弟鈔）

これは六波羅経にある一節で、池上宗仲・宗長兄弟とその妻達が親との信仰上の違和に悩んでいる現実に鑑み、この文を示して、**「警えいかなるわずらわしき事があろうとも「人の心は迷妄（心の迷い）愚痴（おろかさ）なるものであるから、それに随従することなく、師となって調伏すべしである」**から、只法華経の事のみさぐりなさいと教訓された時に引用された言葉です。この一節は仏教界のみならず、一般にも盛んに使われた言葉で、**いかなる禍にも、常に心の師となって心身を制御して、調伏（煩悩や悪心に打ち勝つ意思を持って、冷静に客観的に判断する）よう心掛けたいものです。**

目前心後

「目前心後（もくぜんしんご）と読み、「目前の現象に、後方の心で、客観的に判断する」という意味です。

最近は、姉が弟を殺害しバラバラにして遺体を遺棄するなどの尊属殺人を含めて、殺人事件が頻発しています。また、県民から選ばれた議員が領収書を改ざんし、公費を着服し退職する事件の報道には驚かされます。更に、小学校の教頭が児童を盗撮して懲戒免職になったり、世間がへんになっているように思われます。現代社会で生きる我々は、「自己中心」で、「損得の利害」には敏感です。そのため、人々の心が荒廃し、日本人の良い人間関係や文化や習慣が破壊されているように思います。そこで、日本人の考え方の原点を探ってみようと思います。

西洋人は自然は征服するもの、日本人は自然には順応するものと考え、それぞれの考え方に根本的な違いがあります。建築について、西洋は煉瓦を積み上げ、高く建てる傾向にあります。そのため西洋の遺跡は地震や火山の噴火により廃墟となったものが多いように思います。日本の建築は、三十三間堂のように砂と粘土で土台を造り、地震の時には揺れ、地震が収まると元の状態に戻るように建築されているのも建築された当時から狂いがないそうです。物についても、例えば刃物を作るのに、西洋はコークスという高熱が得られる燃料を持っていたので、溶かして強い鋼を創り出す事が出来ます。日本は木炭が燃料で高熱が得られないので、木炭を炊き鉄を熱し叩いて伸ばし、水につけてまた熱して叩くという「焼きを入れる」事を繰り返して不純物を取り除き、強い鋼を得て研いで仕上げています。切れ味についてドイツのゾーリンゲンのカミソリよりも日本刀の方が切れ味が良いと評価されています。更に、日本人の智慧はそれだけではなく、人間関係にも及んでいます。「村八分」という制度について、「村八分」とは、その村に、著しく被害を及ぼした村人を絶縁して孤立させるというもので、世界の人間関係の風習の中で、最悪のものと言われていますが、しかし、人間の付き合いには、「成人・結婚・出産・旅立ち・普請・法事・病気・水害・火事・葬式」の二分を除いた八分の付き合いをしないという、絶縁しても、悲しい出来事は分かち合おうというのが村八分なのです。結局人間は「助け合っていかないと生きていけない」という社会共同意識が根底にあった、極めて人情的な制度なのです。善悪は別にして、**日本人の場合は、個人から家族へ、村へ、郷里へ、国へ、人類世界へと積み上げ的に"世界"を理解するという生活意識があったと思いますが、戦後、共同社会意識は解体し、個人が世界と対置し、何事も個人中心に構成される社会に変容する中で、個人が自分で考え、判断する傾向が強まってきたように思われます。**

そこで、社会人として自分の許容を越えた時、自分の努力が足らないのに世間に責任転嫁してみたり、自分より良い生活をしている人を見ては妬み、殺人に至るまで他を排除する事件を起こす人も多くなったのではないかと思われます。若年層においても、中学生が友人を刺したり、殺したりという事件も同様ではないでしょうか。

われわれはそういう社会で生きていかなければなりません。そこで、自分を取り巻く出来事に対して、いかなる煩わしい事や困難と思われる事が身の回りに起こっても心掛けたいのが、「目前心後」だと思います。目の前の出来事に対して、絶縁していても、その家族の誰かが死んだときは、村人が葬式を手伝って悲しみを共にし、火事に遭った時も村人がみんなで手を貸して手伝う。それ以外の喜び事には手を貸さないという、「村八分」のような、結局人間は「助け合っていかないと生きていけない」という心優しい懲罰習慣を編み出した心で、冷静に、客観的に判断が加えられるよう心掛けたいものです。

◆　◇　◆　◇　◆　◇　◆

いざという時に困らない為に、当山ではお寺での葬儀（水谷庵を使用した家族葬）希望の方を中心に、**葬儀費用を軽減し安心して葬儀が行えるよう**検討しています。ご不安な方などお気軽にご相談下さい。

住職ひと口法話

第四十八回

昨年のお会式での法話で「目前心後」と合わせて、『幸福論』で知られる、フランスの哲学者アランの「悲観主義は気分によるもの、楽観主義は意思によるもの」から、「楽観は意思、悲観は感情」という言葉を色紙に書いて紹介しました。

人は、感情に流され、落ち込んだり、暗くなったり、時には絶望といった気分に襲われやすいものです。そして、落ち込みから立ち直り、元気に、楽観的になるということはなかなか大変だということも、多くの人は知っている事だと思います。最近、不登校や引きこもりの生徒・ニートが増加している傾向にあると報道されています。

そういう時は、「人事（人間ができる事）を尽くして（やれることと、備えなどをできるだけやって）天命を待つ（後は天にお任せする）ということです。**一概には言えませんが、悲観的にならざるを得ない事態に、過剰な反応をしたり、やるべきこと、できることをやり切っていないために、悲観的状況に陥る人が多いのではないでしょうか。**最後にアランの名言を紹介します。『人間には、自分自身以外に敵はほとんどいないものである。最大の敵は常に自分自身にある。判断を誤ったり、無駄な心配をしたり絶望したり、意気消沈するような言葉を自分に聞かせたりすることによって、最大の敵となるのだ。』「幸福論」

もし悲観的にならざるを得ないような事態がやってきてしまったらどうすれば良いか。